

4 中学校 国語

設問別調査結果 [中学校 国語A：主として知識]

分類・集計結果

分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	◇ 81.9	79.7
	書くこと	5	◇ 76.4	73.6
	読むこと	5	◇ 86.5	86.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	19	◇ 74.5	72.9
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0		
	話す・聞く能力	4	◇ 81.9	79.7
	書く能力	5	◇ 76.4	73.6
	読む能力	5	◇ 86.5	86.1
	言語についての知識・理解・技能	19	◇ 74.5	72.9
問題形式	選択式	23	◇ 76.8	75.5
	短答式	10	◇ 79.0	76.7
	記述式	0		

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

記号の意味

(△) 上回っている

(◇) やや上回っている +3ポイント


(○) ほぼ同程度 ← 全国平均正答率

(◆) やや下回っている -3ポイント

(▽) 下回っている

※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式	札幌市	全国(公立)	札幌市	全国(公立)
1-1	スピーチの途中で聞き手の反応を見て、とった対応として適切なものを選択する	相手の反応を踏まえて話す	1イ				○		◇	93.9	93.0	0.2	0.1
1-2	「成否」という言葉を、聞いて分かりやすい表現に直す	聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話す	1ウ				○		△	68.8	65.0	12.0	12.0
2-1	意見文に対して出された指摘の理由として適切なものを選択する	意見を支える根拠の明確さについて助言する		1オ			○		◇	81.8	79.8	0.2	0.2
2-2	意見文を直した意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、語句の選び方や使い方を工夫して書く		1エ			○		◇	86.0	83.6	0.2	0.2
3-1	用いられている表現の工夫として適切なものを選択する	表現の技法について理解する			1(1)イ(オ)		○		△	61.7	58.3	0.4	0.4
3-2	一人も返事をしたものがなかった理由として適切なものを選択する	登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する			1ウ		○		◇	89.2	88.7	0.3	0.2
3-3	嘉助の言動から読み取れる様子として適切なものを選択する	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する			2イ		○		◇	90.1	89.8	0.4	0.3
4-1	棒グラフの  の変化の内容を適切に書く	伝えたい事実を明確に書く		1ウ			○		◇	69.3	67.6	4.7	4.2
5-1	「なぜ、排水管はS字形になっているのか。」という問いに対する答えとして適切なものを選択する	文章から適切な情報を得て、考えをまとめる			2オ		○		◆	93.5	93.6	0.3	0.2
6-1	「あす」と「あした」という言葉の意味の変化を整理した表に当てはまる言葉として適切なものを選択する	目的に応じて要旨を捉える			1イ		○		◇	71.6	71.3	0.3	0.3
6-2	文章について説明したのとして適切なものを選択する	表現の特徴を捉える			1エ		○		◇	88.0	87.1	0.5	0.4
7-1	二つの回答の構成の違いを説明したものとして適切なものを選択する	伝えたい事柄が明確になるように文章の構成を考える		2イ			○		△	74.1	70.6	0.6	0.7
7-2	要望を適切に捉え、回答の冒頭に一文を加える	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く		2ウ			○		△	70.7	66.4	7.9	8.6
8-1	インタビューをする際の質問の意図として適切なものを選択する	必要に応じて質問しながら聞き取る		1エ			○		◇	86.4	84.6	0.6	0.6
8-2	意図に合った質問として適切なものを選択する			1エ			○		◇	78.4	76.1	0.6	0.7
9-1	漢字を書く(ピョウソク五メートルの風が吹く)	文脈に即して漢字を正しく書く			2(1)ウ(イ)		○		◇	89.0	88.5	2.1	2.2
9-2	漢字を書く(地図のシュクシャクを調べる)				2(1)ウ(イ)		○		◇	74.5	72.1	9.6	10.1
9-3	漢字を書く(アマったお金を貯金する)				2(1)ウ(イ)		○		◇	71.6	70.9	16.6	15.9

9二1	漢字を読む（詳細に述べる）				2 (1) ウ (ア)		○	△	82.1	78.2	4.1	5.1
9二2	漢字を読む（シャツの袖をまくる）	文脈に即して漢字を正しく読む			2 (1) ウ (ア)		○	◇	94.9	94.1	1.1	1.2
9二3	漢字を読む（学校のことが新聞に載る）				2 (1) ウ (ア)		○	◇	97.5	97.2	1.1	1.3
9三ア	適切な語句を選択する（将来は、気象予報士になりたい）				2 (1) イ (イ)		○	◇	97.7	97.6	0.5	0.5
9三イ	適切な語句を選択する（彼がこの討論の口火を切った）				1 (1) イ (ウ)		○	△	64.8	55.5	0.7	0.9
9三ウ	適切な敬語を選択する（私が先生のお宅に参ります）	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う			2 (1) イ (ア)		○	◆	83.5	84.1	0.6	0.7
9三エ	適切な語句を選択する（彼女は、学級の縁の下の力持ちと言える存在だ）				1 (1) イ (ウ)		○	◆	69.4	70.8	0.8	0.8
9三オ	適切な語句を選択する（たなびく雲の間から、春の光がもれている）				1 (1) イ (ウ)		○	◇	49.6	49.0	0.6	0.7
9三カ	適切な語句を選択する（新聞を読む習慣を身に付ける）				2 (1) イ (イ)		○	◇	89.6	86.9	0.8	0.9
9四①	「青い」と「青さ」の品詞として適切なものを選択する	単語の類別について理解する			1 (1) イ (エ)		○	◇	63.2	62.3	0.9	0.9
9四②					1 (1) イ (エ)		○	◇	36.1	33.7	1.1	1.1
9五	運筆の際の説明に対応する部分として適切なものを選択する	毛筆を用いて、楷書で文字を書く			1 (2) ア		○	◆	83.9	85.9	0.8	0.8
9六	手紙の後付けの直し方とその理由として適切なものを選択する	手紙の書き方を理解して書く			1 (2) ア		○	◆	57.2	58.2	1.2	1.2
9七1	漫画の言葉に対応する部分として適切なものを古典の文章の中から選択する	漫画の内容を参考にして、登場人物の思いやものの見方を想像する			2 (1) ア (イ)		○	◇	77.5	75.3	1.3	1.4
9七2	古典の作品名を漢字で書く	代表的な古典の作品に関心をもつ			1 (1) ア (イ)		○	△	71.5	66.7	8.3	9.9

(△)上回っている (◇)ほぼ同程度だがやや上回っている (○)全国平均と同じ (◆)ほぼ同程度だがやや下回っている (▼)下回っている

【設問分析】

1 スピーチをする

①は、相手の反応を踏まえて話すことと、聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話すことができるかどうかをみるものである。

【設問一】

- スピーチの途中で聞き手の反応を見て、とった対応として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】

- 「成否」という言葉を、聞いて分かりやすい表現に直す設問では、全国の平均正答率と比較して、上回っているが、無解答率も高い。

スピーチの授業では、聞き手を意識し、分かりやすい言葉を使うよう指導することが大切である。その際、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方についての工夫や、聞き手にとって分かりやすい言葉を選んで使うことなどを指導しなければならない。
例えば、アナウンサーの話し方や講演会での講師のスピーチを映像などで示し、工夫が感じられたところを生徒が交流する学習活動が有効である。

2 意見文を書く

②は、意見を支える根拠の明確さについて助言することと、書いた文章を読み返し、語句の選び方や使い方を工夫して書くことができるかどうかをみるものである。

【設問一】

- 意見文に対して出された指摘の理由として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】

- 意見文を直した意図として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

意見文を書く際には、自分の意見を支える根拠を明確に示す必要がある。グループ学習などで互いに意見文を交流する学習活動では、根拠の明確さや適切さを、相互評価の観点として設定することが有効である。

また、相手や目的に応じて、読みやすく分かりやすい文章になるように推敲することも大切である。文章全体の構成を工夫することはもちろんのこと、接続詞や助詞などを適切に使えるように指導することが必要となる。さらに、話し言葉と書き言葉の違いを明確にすることも求められる。

3 文学的な文章を読む（「風の又三郎」）

③は、表現の技法について理解することと、登場人物の心情や行動について注意して読み、内容を理解すること、及び登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することができるかどうかをみるものである。

【設問一】

- ・用いられている表現の工夫として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、上回っている。

【設問二】

- ・一人も返事をしたものがなかった理由として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問三】

- ・嘉助の言動から読み取れる様子として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。


表現技法については、小学校での既習事項であることを踏まえ、作文や感想文を書く際に、表現技法を活用する場面を設けて理解を深める指導が有効である。

また、文学的な文章の学習では、登場人物の言動や情景描写などに着目して、文章全体の内容理解を図ることが大切である。その際、話の展開上、重要な意味をもつと考えた言動を捉えるとともに、その根拠を話し合うなどの学習活動が有効である。並行読書など、読書活動と結び付けた学習活動も有効である。

4 グラフから分かることを書く

④は、伝えたい事実を明確に書くことができるかどうかをみるものである。

【設問一】

- ・棒グラフの  部の変化の内容を適切に書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

説明や記録の文章を書く学習活動では、目的や意図に応じた図表を用いるとともに、必要な情報を取り上げたり、その情報の信頼性を確かめたりすることが大切である。例えば、インターネットや学校図書館を活用して、使用する図表等の信頼性を調査するとともに、他に活用できる資料がないか調べるなどの学習活動が有効である。また、文章を書く際には、読み手に伝わるよう言葉を選択することを意識させることが大切である。

5 説明的な文章を読む

⑤は、文章から適切な情報を得て、考えをまとめることができるかどうかをみるものである。

【設問一】

- ・「なぜ、配水管はS字型になっているのか。」という問いに対する答えとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

疑問や課題の解決の手掛かりとなる情報を求めて文章を読む学習活動では、自分の疑問に対する答えが書かれている部分に着目し、その情報の真偽や適否を見極めながら考えをまとめるように指導することが大切である。そのような力を高めるためには、例えば、提示された課題に対し、複数の資料を読み比べながら、答えとなる部分を探し出す学習活動が有効である。その際、グループ学習で話し合うなどの学習形態の工夫も考えられる。

6 説明的な文章を読む

⑥は、目的に応じて要旨を捉えることと、表現の特徴を捉えることができるかどうかをみるものである。

【設問一】

- ・「あす」と「あした」という言葉の意味の変化を整理した表に当てはまる言葉として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】

- ・文章について説明したものとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

説明的な文章を読む際には、文章の構成や展開を分析的に捉えた上で、内容を正確に理解する必要がある。授業では、叙述の仕方に注目しながら、段落相互のつながりを理解し、文章構造図を作るなどして文章の構成を捉える学習活動が有効である。その際、実物投影機などを活用し、文章構造のモデルを示すなどの工夫も効果的である。

7 委員会に寄せられた要望に対する回答を書く

⑦は、伝えたい事柄が明確になるように文章の構成を考えると、伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことができるかどうかをみるものである。

【設問一】

- ・二つの回答案の構成の違いを説明したものとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、上回っている。

【設問二】

- ・要望を適切に捉え、回答案の冒頭に一文を加える設問では、全国の平均正答率と比較して、上回っている。

投書に対する回答や、メールの返信などを書く学習活動では、相手が求めている事柄を的確に捉え、それに対して必要な情報を過不足なく書くことが求められる。その際、書く目的や読み手の立場を考えて書くことが大切である。授業では、実際のメール文や返信する相手などを設定し、限られた字数で過不足なく要件を伝えられる返信文を書く学習活動が有効である。

8 インタビューをする

⑧は、必要に応じて質問しながら聞き取ることができるかどうかをみるものである。

【設問一】

- ・インタビューをする際の質問の意図として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】

- ・意図に合った質問として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

インタビューを取り扱う学習活動では、事前に用意した質問だけではなく、相手の話す内容に応じ、その場で考える質問も必要となる。また、具体的な話を導き出すために、聞くタイミングや表情など、様々な工夫も必要となる。実際にテレビでインタビュアーがインタビューしている場面を視聴したり、テーマを設けて実際にグループ内でインタビューを行ったりする学習活動が有効である。

9 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

⑨は、文脈に即して漢字を正しく書くこと、文脈に即して漢字を正しく読むこと、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと、単語の類別について理解すること、毛筆を用いて、楷書で文字を書くこと、手紙の書き方を理解して書くこと、漫画の内容を参考にして、登場人物の思いやものの見方を想像すること、代表的な古典の作品に興味をもつことができるかどうかをみるものである。

【設問一】

- ・ 1 「秒速」を書く問題では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- ・ 2 「縮尺」を書く問題では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- ・ 3 「余(った)」を書く問題では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っているが、無解答率も高い。

【設問二】

- ・ 1 「詳細」(しょうさい)を読む問題では、全国の平均正答率と比較して、上回っている。
- ・ 2 「袖」(そで)を読む問題では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- ・ 3 「載る」(のる)を読む問題では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問三】

- ・ ア「気象」を選択する問題では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- ・ イ「口火」を選択する問題では、全国の平均正答率と比較して、上回っている。
- ・ ウ「参ります」を選択する問題では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。
- ・ エ「縁」を選択する問題では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。
- ・ オ「たなびく」を選択する問題では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- ・ カ「慣」を選択する問題では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問四】

- ・ ①「青い」の品詞を選択する問題では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- ・ ②「青さ」の品詞を選択する問題では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っているが正答率そのものは低い。

【設問五】

- ・ 運筆の際の説明に対応する部分として適切なものを選択する問題では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問六】

- ・ 手紙の後付けの直し方とその理由として適切なものを選択する問題では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問七】

- ・ 1 漫画の言葉に対応する部分として適切なものを古典の文章の中から選択する問題では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- ・ 2 古典の作品名を漢字で書く問題では、全国の平均正答率と比較して、上回っている。

漢字を読んだり書いたりする学習活動では、部首と意味との関係や文脈に即して読むことなどの基本的な知識を習得するとともに、実際に漢字を使って文章を書く指導も重要である。

語句の意味について理解を深めるためには、実際に日常生活でその語句が用いられている場面を想定した指導が効果的である。同様に、単語の類別などの文法的な内容の学習についても、実際の文章を例にしながら指導することが効果的である。

手紙の書き方については、書写の授業と関連付けて指導することが効果的である。また、身に付けた知識や技能を、総合的な学習の時間などで活用する場面を設けることも大切である。

古典に親しむための指導では、ことわざなど日常生活に生き続けているものや、生徒にとって親しみのある作品を取り上げることが有効である。その際、小学校での既習事項を確認し、重複するような指導は避け、さらに発達段階に応じた学習内容とすることが大切である。

設問別調査結果 [中学校 国語B：主として活用]

分類・集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	◇ 73.8	72.2
	書くこと	3	◇ 39.6	36.7
	読むこと	6	◇ 64.1	62.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0		
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	◇ 39.6	36.7
	話す・聞く能力	3	◇ 73.8	72.2
	書く能力	3	◇ 39.6	36.7
	読む能力	6	◇ 64.1	62.6
	言語についての知識・理解・技能	0		
問題形式	選択式	6	◇ 81.2	80.3
	短答式	0		
	記述式	3	◇ 39.6	36.7

記号の意味

(△) 上回っている

(◇) やや上回っている +3ポイント

ほぼ同程度 ← 全国平均正答率

(◆) やや下回っている -3ポイント

(▼) 下回っている

※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式	札幌市	全国(公立)	札幌市	全国(公立)
1一	ノートのその他の情報を役立てられる場合として適切なものを選択する	状況に応じて、資料を活用して話す	2ウ					○	◇	75.2	73.2	0.2	0.2
1二	フリップを作成する際に取り入れたポイントとして適切なものを選択する	効果的な資料を作成し、活用して話す	2ウ					○	◇	88.2	87.3	0.4	0.4
1三	演奏するタイミングを選択し、その理由をノートの内容と結び付けて書く	資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書く	2ウ	1ウ				○	◇	58.0	56.2	3.1	2.8
2一	ウェブページの文章の内容について述べた文の空欄に当てはまる言葉として適切なものを選択する	目的に応じて文章を要約する			1イ			○	◆	82.3	82.6	0.3	0.3
2二	雑誌の記事に書かれていることとして適切なものを選択する	文章の中心的部分と付加的な部分などを読み分け、要旨を捉える			1イ			○	◇	69.2	67.8	0.4	0.3
2三	資料を参考にして2020年の日本の社会を予想し、その社会にどのように関わっていきたいか、自分の考えを書く	複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く	2ウ	2オ				○	◇	24.9	23.0	4.3	3.7
3一	「お泣きなさるな」という翻訳の効果として適切なものを選択する	表現の工夫について自分の考えをもつ			1エ			○	◇	89.2	88.6	0.6	0.5
3二	「あたりは……良かった。」の説明として適切なものを選択する				2ウ			○	◇	83.2	82.6	0.7	0.7
3三	文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書く	文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く	1ウ	2ウ				○	△	35.8	31.1	13.5	11.2

(△)上回っている (◇)ほぼ同程度だがやや上回っている (○)全国平均と同じ (◆)ほぼ同程度だがやや下回っている (▼)下回っている

【設問分析】

1 資料を作成して発表する(オカリナ)

1は、状況に応じて、資料を活用して話すこと、効果的な資料を作成し、活用して話すこと、資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書くことができるかどうかをみるものである。

【設問一】

- ノートのその他の情報を役立てられる場合として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】

- フリップを作成する際に取り入れたポイントとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問三】

- 演奏するタイミングを選択し、その理由をノートの内容と結び付けて書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

スピーチやプレゼンテーションを行う学習では、フリップなどの資料を活用すると聞き手の理解を深めることができる。資料の作成に当たっては文字の大きさや、写真・図版の活用について指導する必要がある。その際、コンピュータや学校図書館を活用し、複数の資料から選択する学習活動が効果的である。また、作成した資料をどのようなタイミングで提示すると、より効果的であるかについて、全体での発表の前に小グループで練習し、互いに指摘し合う学習活動も有効である。

2 情報を関連させて読む（2020年）

②は、目的に応じて文章を要約すること、文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分け、要旨を捉えること、複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くことができるかどうかをみるものである。

【設問一】

- ・ウェブページの文章の内容について述べた文の空欄に当てはまる言葉として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問二】

- ・雑誌の記事に書かれていることとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問三】

- ・資料を参考にして2020年の日本の社会を予想し、その社会にどのように関わっていきたいか、自分の考えを書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

説明的な文章を読む際には、論の展開の中心となる部分と、その根拠として扱われている例示や引用の部分を読み分ける必要がある。また、例示や引用がどの論と結び付いているかを、明らかにすることも大切である。例えば、ワークシートなどを活用し、文章全体の構造を捉える学習活動が有効である。また、多様な情報から自分なりの問題意識や新たな発想を得るためには、複数の資料から得た情報を整理し、自分の体験などと結び付けて考える必要がある。その際、コンピュータや学校図書館を活用するとともに、情報リテラシーも併せて指導することが大切である。

3 文学的な文章を読む（「鴉」）

③は、表現の工夫について自分の考えをもつこと、文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書くことができるかどうかをみるものである。

【設問一】

- ・「お泣きなさるな」という翻訳の効果として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】

- ・「あたりは……良かった。」の説明として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問三】

- ・文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書く設問では、全国の平均正答率と比較して、上回っているが、無解答率も高い。

文学的な文章は、展開や結末に様々な工夫が凝らされていることが多い。そのおもしろさに気付くには、文章全体の構成を捉えるとともに、表現上の工夫にも目を向ける必要がある。学習活動としては、文章の展開において鍵となる言葉や慣用句など工夫された表現を取り上げて指導することが効果的である。また、自分の考えを書く学習活動では、根拠を明確にし、説得力のある文を書くことが求められる。その際、自分の考えと根拠の整合性を確認することが大切である。例えば推敲の段階で、生徒相互で話し合うなどの学習活動や、実物投影機などのICT機器を活用するなどの工夫が有効である。

中学校 国語

児童生徒質問紙【教科に関する設問】	年度	【1】	【2】	【3】	【4】
国語の勉強は好きですか	H26	22.6	35.9	27.9	13.5
	H27	27.2	36.0	24.6	12.3
国語の勉強は大切だと思いますか	H26	50.1	37.2	9.2	3.4
	H27	53.0	34.5	9.0	3.3
国語の授業の内容はよく分かりますか	H26	22.6	48.8	22.6	5.8
	H27	27.4	46.7	20.2	5.6
読書は好きですか	H26	52.9	22.0	14.7	10.2
	H27	51.5	21.9	14.5	11.8
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	H26	39.9	41.4	13.7	4.8
	H27	43.4	38.6	13.1	4.8
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	H26	11.3	35.5	39.8	13.2
	H27	14.0	35.3	38.0	12.6
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	H26	10.6	35.8	40.5	12.9
	H27	13.9	37.7	36.7	11.6
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	H26	19.0	41.1	30.5	9.2
	H27	22.8	42.6	26.3	8.2
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりに内容を理解しながら読んでいますか	H26	24.1	43.5	24.7	7.5
	H27	26.4	44.0	22.6	6.8

【1】当てはまる

(単位は%)

【2】どちらかと言えば、当てはまる

【3】どちらかと言えば、当てはまらない

【4】当てはまらない

＜設問分析＞

- 「国語の勉強は好きですか」という質問では、肯定的に回答した割合が 63.2% (26 年度 58.5%) となっており、全国平均を 2.7 ポイント上回っている。昨年度と比較して向上が見られており、単元を貫く言語活動の浸透などが要因であると考えられる。引き続き、生徒の意欲を引き出す指導の充実が求められる。
- 「国語の勉強は大切だと思いますか」という質問では、肯定的に回答した割合が 87.5% (26 年度 87.3%) となっており、全国平均を 2.4 ポイント下回っている。授業で身に付けた知識や技能を活用する場を設定し、生徒が学習の成果を実感できるような指導の工夫が求められる。
- 「国語の授業の内容はよく分かりますか」という質問では、肯定的に回答した割合が 74.1% (26 年度 71.4%) となっており、全国平均を 0.2 ポイント下回っている。昨年度と比較して向上が見られるが、個に応じた指導や生徒自身が自らの学習状況を把握できるような評価の充実に引き続き努める必要がある。
- 「読書は好きですか」という質問では、肯定的に回答した割合が 73.4% (26 年度 74.9%) となっており、全国平均を 5.5 ポイント上回っている。全国平均と比較して高い水準を維持しているが、学校図書館のさらなる活用や多様な読書活動の充実について、引き続き取り組むことが求められる。
- 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問では、肯定的に回答した割合が 82.0% (26 年度 81.3%) となっており、全国平均を 2.2 ポイント下回っている。昨年度と比較し向上しているが、引き続き、習得と活用のバランスを図りながら、社会生活で生きる国語の力を育む指導の充実が求められる。
- 「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」という質問では、肯定的に回答した割合が 49.3% (26 年度 46.8%) となっており、全国平均を 9.9 ポイント下回っている。昨年度と比較し向上傾向にあるが、全国平均との差は広がっている。資料活用能力の向上を図るために、学校図書館やインターネットの活用を進めるとともに、自他の考えをすり合わせるために、グループでの交流を取り入れるなどして、自分の考えを表現する力を高める指導の充実が引き続き求められる。

- 「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」
という質問では、肯定的に回答した割合が 51.6% (26年度 46.4%) となっており、全国平均を 2.4 ポイント下回っている。授業でスピーチやプレゼンテーションを行う場合は、グループ学習で互いに評価するなどし、聞く側の視点で話を組み立てる学習活動の充実が求められる。
- 「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか」
という質問では、肯定的に回答した割合が 65.4% (26年度 60.1%) となっており、全国平均を 0.3 ポイント下回っている。意見文などを書く際には、根拠を明確にし、自分の意見に客観性をもたせる指導の充実が求められる。
- 「国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか」
という質問では、肯定的に回答した割合が 70.4% (26年度 67.6%) となっており、全国平均を 0.2 ポイント下回っている。文章構造図を用いるなどして文章全体の構成を捉えるとともに、段落ごとのつながりや役割について明確にする学習活動の充実が求められる。